

津田校区だより

発行所
津田校区
コミュニティ協議会
福祉委員会
広報部

津田春日神社歴史ものがたり



津田は、古くから穂合三之宮の「屋形大明神」を祖神として祀っていましたがいつの頃から、津田の現在地に内宮として春日四大神を祀ることになったと考えられます。しかし、古くは春日神社と呼ばずに社（やしろ）とか、宮（みや）と呼んでいたと推測されます。

現在の本殿は、明和三年（一七七六）の春日大社本殿の造替に際し廃された旧社殿を移築した、いわゆる「春日移し」の社殿です。本殿の左隣にある末社若宮八幡宮本殿も春日大社末社三十八所神社旧本殿を移築した「三十八所移し」と呼ばれる建築遺構です。「三十八所移し」は、全国でも僅かに八棟を数えるにすぎず、大阪府内では唯一のものです。平成二三年（二〇一一）に、いずれも枚方市の登録有形文化財に指定されています。

この宮の祭典は、今日では十月十九日に行われていますが、かつては九月十九日（旧暦）に行われていたそうです。言い伝えによると、嘉吉二年（一四四二）のこの日、中原宗兼の発願

で始めてこの神庭で村人による住吉踊りが演じられ祭が行われたと言われています。

また、宮の境内には古い藤の木が二、三本あって、ほかの木に絡み合って高く昇っており、毎年その藤の花は、見事に咲き誇り実に立派であったと伝わっています。永禄年中（一五五八～一五七〇）に津田を訪れた五条親王なる高貴な方がこの藤の花を御覧になって、

今もなほ久しくなりぬ津田の藤あふげば高し神のみかげはという和歌を詠じたと言われています。

春日神社と「宮座」

この津田の春日神社には、中世以来の氏子による伝統ある祭祀組織（宮座）があり、南座・津田座・兵衛座・四十人座の四座と侍座・久和也座・植元座・杉植座・谷本座・新九郎座・宗祐座・横鏡餅講の座が伝わっています。古くから祭りの神酒と神供の準備を輪番で行ってきたと言われています。神供には南瓜・茄子・枝豆・生姜・カマスなどで、いずれも稲穂で縛り器

の上に置き、南瓜以外のものは膳に並べます。それぞれの座の氏子の代表は、祭りの前日、それぞれの当座（祭りに際し、神事や行事の世話をする家）に集まって神供を調製し、祭りの当日には、早朝から烏帽子・白丁姿で供物を納めた唐櫃を担いで神社に集合し、規定の順序に従って神供を献上するのです。祭典が終わった後は解散して、翌日にそれぞれの当座の家で神供を分配し酒宴を行っています。

津田の秋祭は、別名「提灯祭」とも言われます！

十月十八日（宵宮）、十九日（本宮）には、市場・谷・大谷・東谷・嶽・横・田中・大峰（旧町名）の各町内から亥・鹿・蝶などの美しい金銀浮彫細工が施された長さ数メートルもある色鮮やかな大提灯が本殿前に、さらに、拝殿前にも大きな提灯が掲げられ灯がともされます。南北の参道にもヤグラ提灯が灯され、家々の門に掲げられた提灯にも火が灯されます。三宅氏所蔵の『見聞録抜書』には、「寛政元年（一七八九）九月十八日、津田村中若中より大ちやうちん拾ふり寄進」と記されています。この頃から「提灯祭」と呼ばれるようになったのかもしれない。提灯の火の当番は若中の仕事だったそうです。

今日の宵宮と本宮には、神社境内や津田本通り沿いの両側に夜店（露店）が並び、縁日を楽しむ多くの人々が賑わいます。

神社と「大きな石鳥居」

神社入口の石橋を渡ると、ひと際大きな石鳥居が目に入ります。向かって右側の石柱のかなり高い所に「天保三年壬辰曆四月・・・」と刻まれているのが読み取れます。天保三年（一八三二）の四月にこの鳥居が建てられたのです。津田の清水谷の石切場から切り出され村人総勢で運搬したそうです。運搬途中に家屋が建っていて邪魔になったので壊して運んだと言う、今日では考えられない話も伝わっています。先人の苦勞が偲ばれます。

（枚方歴史を楽しむ会代表

三宅俊隆）



令和6年の幕開けとともに、被災した能登半島地震で亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々へ心よりお見舞いを申し上げます。

この地震後も震度5以上の地震が続き3月には福島県沖、茨城県南部、4月には岩手県沿岸、鹿児島県大隅半島東方沖。4月17日には豊後水道でマグニチュード6.6の地震、四国では初めての震度6弱の地震が観測され、6月3日早朝には復興が進んでいない能登半島で更なる5強の地震が発生しました。

これらの地震は南海トラフ巨大地震とは直接的な関係はないと言われていますが、一方では南海トラフ巨大地震の発生確率が今後30年以内には70%、80%、40年以内には90%程度とも報道されています。

私達はこれに備え一次

避難所となる津田小学校内に3か所のスペースを借用し、市から配布のあった毛布、断熱シート、発電機、プライバシー保護用のパーテーションや市の補助金で購入した非常食・飲料水やその他必要と思われる多くの物品類の備蓄を行っています。まだまだ十分とは言えません。

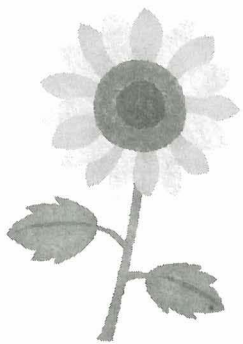
皆さんには、日頃から「我が事」として備えを進めていただくことが不可欠です。家屋の耐震化、家具の固定、食料・飲料水などの備蓄例えば非常食3〜10日分（アルファ化米・ビスケット・板チョコ等）、飲料水3〜10日分（1人1日3リットルが目安）、生活必需品（トイレット・ティッシュペーパー・マッチ・常備薬等）、下着や使い捨てカイロ携帯ラジオなどを入れた「非常用持ち出し袋」の用意が挙げられます。

また、4月中旬に区を経由して全戸回覧された枚方市コミュニティ協議会からの「自治会活動に参加しよう」の地震・水害などの自然災害への備えの欄に、●自主防災組織の結成●災害時要援護者支援事業が書かれています。自主防災組織（自主防災会）は結成されていますがまだまだ組織の拡大と強化が必要な状況です。また各地域ごとに早急に住民が仲良く助け合っ



献血ありがとうございました

6月13日、午前と午後にアルプラザ平和堂駐車場で三校区（津田、津田南、氷室）が一緒に実施しました。合計23名の方から400ml献血をしていただきました。枚方津田高校生も参加してくれました。来年は時期をずらして実施することも考えております。



災害に備えよう！

自主防災会



津田中学校に赴任して

枚方市立津田中学校 校長 田中 博

四月に校長として津田中学校に着任いたしました田中博と申します。本校区は津田村として歴史もあり、付近には多くの史跡も残っています。津田中学校も一九四七年に開校した歴史と伝統のある学校です。長きにわたり、地域の方々のご支援を受けながら愛されてきた学校に赴任させていただきますことに、身が引き締まる思いでございます。

さて、二〇一九年末から始まった未曾有のコロナウイルス感染症の流行により、社会は大きなダメージを受けました。日常生活が制限され、多くの行事も中止となりました。時とともに、「ウィズコロナ」「アフターコロナ」が言われ、コロナウイルスとの共存が始まりました。その後は、「ポストコロナ」と呼ばれるコロナウイルスが社会に存在することが当たり前の状態において、これからどうしていくべきなのかを考えて生活をしていくことになりました。当

時においては大変な状況だと誰もが悩んでいましたが、今ではすっかり過去のことのように思えるほどになりました。

しかし、日常生活の過ごし方はかなり戻りましたが、その間に失ったものも多く、特に社会生活の共同の部分の復活がなされていないことが多くあります。学校内の活動はもとより、地域との共同、小学校をはじめとする学校間の共同など、コロナ禍で失われた共同を現在の社会情勢を鑑みながら連携を深め築き直していきたいと思っています。

校区のすべての方がさらに津田中学校区を好きになり、小中学校を応援していただける校区となるよう尽力してまいりたいと存じます。校区の皆様におかれましては、引き続き、幼児児童生徒たちの見守りとともに、学校教育、PTA活動、地域活動等、ご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



未来を創る子どもたちのために

明日はいつでも新しい

枚方市立津田小学校 教頭 勢木 隆司

歴史深い学校に赴任でき、様々な方々のご協力があり、津田小学校が長い年月を経たきた重さを日々感じています。新年度が始まり、子どもたちの様子を見ています。しっかりと話をしている人の方を向いて聞くことができ、あいさつや返事の声も元氣よく、とても素晴らしいなと思っています。

また、津田小学校の校歌の一節「心を洗い身を磨く。若い命に光あれ」とあるように、よく学び、よく遊び、光と希望に満ちた未来を創る子どもたちを教頭として応援し、できることに精一杯取り組んでまいります。

さて、今年度の津田小学校は「もちあじ」をキーワードに教育活動を行っています。子どもたちと教職員が、ともに自分自身のもちあじ、仲間のもちあじを大切にしながら、授業づくりや集団づくりをしています。特に、授業づくりでは、聴き合う関係づくりときょうどう学習に力を入れています。聴

き合う関係とは、「依存すれば自立する」を基軸に、「自分で理解しながら説明すること」ができ、相手を納得させることもでき、どのようなことを学ばなければならないのかを考えた行動できる」ということを学習していきます。

きょうどう学習では、教材・仲間・自己との対話を重視しながら、すべての子どもたちが分かる授業づくりをめざし、教職員一同取り組んでいます。

最後にタイトルは、私がいつも心に留めている言葉です。日々様々なことがある毎日ですが、寝て起きると、また新しい一日が始まります。すべてのいきものは、この同じ二十四時間の中で生活しています。その限られた時間の中で、今後も精一杯、子どもたち、地域の方々のために頑張っていますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

何かあったときには気軽に声をかけあい、助け合えるよう、地域のつながりを大切にしたいの思いで、楽しい地域の文化祭「津田ふれあいフェスティバル」を3月に開催しました。当日はあいにくの天気にもかかわらず多くの方々のパワーが結集し、とても活気のあるものとなりました。

係わっていただいた方、ご来場いただいた多くの方々に改めてお礼を申し上げます。

さて前回の課題をふまえ、より参加しやすく、より多くの方が楽しめるような第2回津田ふれあいフェスティバルを9月22日（日）に開催いたします。

少しでも興味をお持ちいただけましたらぜひご来場ください。きっと皆さんの想像を超える出来事に出会えるはずです。

少しでもいい、前に進んでみませんか？

皆様の御参加をお待ちしています。

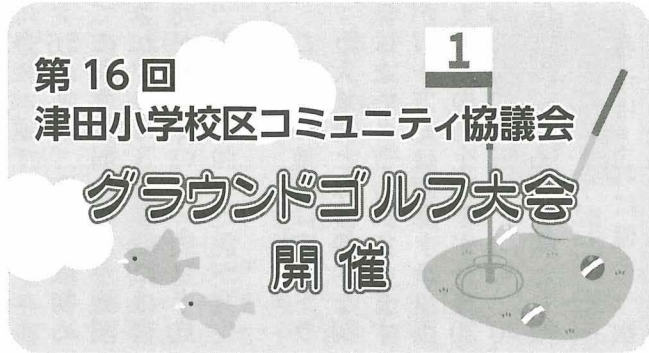
津田ふれあいフェスティバル

実行委員会代表 川原 仁寿



令和6年度活動計画

月	校区コミュニティ協議会	校区福祉委員会
4	役員会(合同) 春の全国交通安全運動	役員会(合同) 春の全国交通安全運動
5	総青少部会	総青少部会
6	クリーン津田大作戦協力 役員会	クリーン津田大作戦協力 ふれあいいきいきサロ ン 献 血
7	校区だより発行 夏休み一斉パトロール 役員会	子育てサロン 校区だより発行 夏休み一斉パトロール
8	役員会(合同) 夏休み一斉パトロール	役員会(合同) 夏休み一斉パトロール
9	秋の全国交通安全運動 青少部会 津田ふれあいフェスティバル 役員会	秋の全国交通安全運動 ふれあいいきいきサロ ン 青少部会
10	秋まつりパトロール 元気づくり地域づくり会議 つだっこまつり 役員会	子育てサロン 元気づくり地域づくり会議 秋まつりパトロール
11	ミニ運動会 津田小防災教育の実施	ミニ運動会 ふれあいいきいきサロ ン
12	役員会(合同) 冬休み一斉パトロール	役員会(合同) 福祉サロン 冬休み一斉パトロール
1	新年合同会議(幹事会)	新年合同会議(幹事会) ふれあいいきいきサロ ン 小学生との給食交流会
2	自主防災訓練 元気づくり地域づくり会議 役員会 校区だより発行	子育てサロン 元気づくり地域づくり会議 校区だより発行
3	グラウンドゴルフ大会 役員会 青少部会 春休み一斉パトロール	春まつり作品展 ふれあいいきいきサロ ン 青少部会 春休み一斉パトロール



令和6年3月10(日曜日)
当日はグラウンドゴルフに
相応しい天候に恵まれ、受
付は9時から行い、9時半
から長村大会会長挨拶で始
め、準備運動を津田小学校
大泉校長にお願いして、当
日スタッフとしてお願いし
た皆さんを含め、全員で準
備運動を行い競技を始めま
した。

一般の部(中学生からお
年寄りまで)、小学生の部
(小学生、未就学児を含む)
の部門別で行いました。競
技内容は一般の部と小学生
の部混合で行い、それぞれ
部門別に賞品が準備されて
いる為、時には熱くなり和
気あいあい楽しく過ごす
ことができました。

参加された皆さん怪我も
無く無事終了する事が出来
ました。
当日は参加者、スタッフ
を含め約100名の方々に
実施する事が出来ました。
津田小学校区コミュニティ
主催のグラウンドゴルフ大
会は、津田小学校区民の健康
と福祉の増進、地域交流を
図る目的で実施しています



編集後記

今回は、コミュニティ、
福祉委員会の挨拶を送
り、室町時代以来、津田地
域の尊崇を集めてきている
「春日神社」について、三宅
氏に記事をお願いした。改
めて、その営みの経過を知
り、健康と平和を祈願した
いものだと思う。
今年の行事は、昨年来と
違ったものが生まれる。津
田に住む人々が関心を高
め、参加し集い合いたい。

津田校区の人口・世帯数・高齢化率(65歳以上/人口)

(令和6年5月9日現在)

・男性 5,531人 ・女性 5,626人 計 11,157人

・世帯数 5,508世帯

・高齢化率 29.5% 市全体 29.0%

65歳以上 男性 1,436人 女性 1,850人 計 3,286人